



留学先で見たこと聞いたこと

重田 昌吾 産婦人科

教室員会の皆様初めまして。私は2016年9月より2年4か月シアトルにあるFred Hutchinson Cancer Research Center（以下FHCRC）にポスドクとして研究留学しておりました。この度留学だよりを寄稿させていただく機会を得ましたので、忘れてしまわないうちに思いつくまま綴らせていただきます。全く面白い話ではありませんので、お時間にゆとりがあるときの暇つぶしにでもお読みいただければ幸いです。

大学院時代に海外で研究してみようと思いつき留学先を探していたのですが、英語で積極的にアプローチできる性格でもなくひたすら求人情報を眺めるだけの日々を過ごしておりました。そんなある日、偶然にもFHCRCのポスドク求人を見つけたので同研究所に留学経験のある産婦人科T先生に相談したところ、求人元のボスがなんとT先生が当時住んでいた家の大家だったというウソのような幸運が重なり推薦メール一通ですぐSkype面接を組んでもらえました。面接終了後には「いつから来れる?」と仰っていたいただき、あっさり採用してもらえる運びとなりました。アメリカのグラント採択率は日本以上に厳しく、ポスドクであってもポスト争いは激化の一途のようです。国籍、語学力を問わずアメリカのラボで働きたい大学院生はとにかく自分を売りこむ必要があることを留学してから実感しました。私のように中途半端な探し方で留学先がみつかったのは本当にラッキーだったと思います。雇ってくれたボスと

T先生には感謝してもしきれません。

私が在籍していたラボは、がん種を問わずスクリーニング技術を応用したがんトランスレーショナルリサーチを専門にしていました。前任者の急な退職に伴い卵巣がんのプロジェクトを引き継ぐ予定で採用されたのですが、私が渡米して間もなくプロジェクト自体が棚上げとなってしまい結局一から新しいテーマを立ちあげざるを得なくなりました。新しい環境に慣れるだけでも大変だったので真っ白からスタートの研究がそう簡単に進むわけがなく、なんとか光が見えたころには既に1年が経過していました。後れを挽回すべく後半はラボに入り浸りになってしまい渡米前に想像していたような優雅なアメリカ生活を送ることは残念ながらできませんでした。それなりに充実した毎日でした。

研究は紆余曲折ありましたがラボはとても働きやすい環境でした。総勢5名というアメリカらしくない小さな研究室でしたが、コンパクトな分いつでも遠慮なく相談でき、MDが私だけだったため臨床医としての意見を求められることもありお互いを尊重し合える職場だったと思います。ボスも非常にフランクで、よくディナーや野球観戦に連れて行ってもらったり、自宅用ビール作りの手伝いに駆り出されたりしました（アメリカでは合法です!）。当たり前のことですが、やはり自分にとって働きやすい研究室を選ぶことが最も大事なことかと思っています。私はとにかく海外に行ってみたいという思いだけで留

学先を決めてしまいました。結局自分にあっていたラボだったので結果オーライでしたが、可能であれば留学先を決める際には一度ラボを訪問されることをお勧めいたします。

さて、シアトルといえばシアトルマリナーズの本拠地として、或いはアマゾンやスターバックス発祥の地として知名度の高い都市ですが、ボーイングやマイクロソフト本社も近くにあるため日本企業からの駐在員がたくさん住んでいます。私も平日は日本語をしゃべる機会が殆どありませんでしたが、週末は日本人中心のテニスサークルで学生以来となる本気のテニスを満喫してきました。食に関しても日系スーパーなら日本の食材はたいへん手に入りますし、アジアマーケットも充実しています。和食レ

ストランも人気で、ラボの目の前にはその名も「I love sushi」という直球勝負の有名寿司レストランがあり、アパートのすぐ横は予約が取れないほど人気のソバ屋でした（結局混んでいて一回もいけませんでした）。本当にアメリカな生活を期待される方には物足りないかもしれませんが、日本人にとっては住みやすい環境が整っています。秋から春にかけて雨が多いのが残念なところですが、留学を考えていらっしゃる先生方にはシアトルも選択肢の一つとしておすすめできるかと思います。

最後まで駄文にお付き合いいただきありがとうございます。教室員会の益々の発展を祈念致しまして筆をおかせていただきます。

